

医学部 第42回 医学教育ワークショップ

初めてワークショップに参加した思い

この度、2021年8月27日から28日にかけて開催された「第42回埼玉医科大学医学部医学教育ワークショップ」に参加させていただきました。今年も昨年を引き続き、オンライン形式での開催とのことです。私は日ごろより、後輩や学生へ本当に伝わる教育とはどのようなものか悩みながら、臨床・研究に取り組んでいました。そんな中、本学の教育カリキュラムの立案や実施状況を学ぶことで教育の在り方を改めて考える機会になればと思って参加しました。

ワークショップは埼玉医科大学3病院から様々な部門・診療科の医師30人がパーティシパントとして参加していました。ワークショップの進行はまず2日間ともに討論をしやすい状況を作るため、アイスブレイクの時間が設けられていました。パーティシパントがアイスブレイクを通過することで、自己表現を行った結果、その後活発な討論を行うことに有効と感じました。またアイスブレイク



の時間は学生や研修医に求められる自分の考えを実際にアウトプットできるようにする訓練の意味合いと、その環境を作ってあげる方法

医学部講師 ^{すずき}鈴木 ^{かいま}海馬 (国際医療センター脳卒中外科)



を教育者側に示していると感じました。実際のワークショップでは講義について目標、方略、評価といったカリキュラムを作成していく流れをA-Eの6人1グループに分かれたスモールグループで討論し、全体に発表する形式で行われました。様々な部門や診療科で構成されたグループならではの多様な意見があり、自分の考えに幅を持つ勇気を貰えました。

全体を通して、実際の教育者が学生を教育するに当たり、どれだけ時間を掛け、緻密な計画を練っていることが分かりました。そしてその計画(=カリキュラム)を作成することがどれだけ難しいことであるかを体感しました。本ワークショップの計画・実行に関わったすべての方に深謝申し上げるとともに、埼玉医科大学卒業生として母校の教育に今後深く関わっていきたく感じました。